



第70号  
発行  
釧路湖陵同窓会  
くまざさ編集委員会  
発行日  
平成29年3月1日  
印刷所  
藤田印刷(株)

# 快挙!! 学校初の全道大会2冠 全国大会に連続出場 湖陵高校合唱部

昨年9月3日、札幌市民ホールで開かれた「第83回NHK全国学校音楽コンクール」の北海道ブロック大会において、釧路湖陵高校合唱部は見事、最高賞である金賞を受賞、我が校初の「Nコン」全国コンクールへと駒を進めました。野球でいう「甲子園」のように、各都道府県すべてから代表校が出場できる全国大会と異なり、この「Nコン」では、関東や東北、北陸といった全国8つのブロックから、わずか11校しか出場できない「超難関」だけに、金賞を射止めた合唱部員たちは歓喜に包まれたのでした。この模様は、まさに釧路市初の快挙として、新聞各紙に大きく取り上げられたほどのニュースとなりました。

しかも、さらにその直前の8月には、広島県で行われた高文連の全国大会である「第40回全国高等学校総文化祭」(総文)においても北海道代表として出場を果たしているのですから、まさに全道で2冠! こちらも我が校では26年ぶりの出場とあって、まさに合唱部とその関係者にとっては、それまでの努力と苦労がすべて報われたうれしすぎる成果となりました。



NHK全国学校音楽コンクールに出場した合唱部

そしてこのことは、すでに引退した3年生を含め、36名の部員を率いて大会に臨んだ小玉裕果部長や、合唱部の指導に当たり続けてこられた顧問の高坂良修先生にとっても、それはそれは大きな喜びに包まれた瞬間だったに違いありません。

「今年の大会に臨む1、2年生にとっては、この実績は大きなプレッシャーになるかもしれませんが、これまで私たちが培ってきた『湖陵らしさ』、つまり合唱という枠にはまらない表現力に磨きをかけ、パフォーマンス精神を発揮して連覇を目指してほしいです」と小玉前部長は後輩にエールを送ります。

きたる3月31日には「まなぼつと幣舞」大ホールでの定期演奏会を、4月には器楽部と合同での新入生歓迎コンサートを控えている合唱部ですが、高坂先生は「うちの合唱部は『みんな仲間!』というアットホームさが売り。個々のキャラクターを活かして、楽しい音楽を一緒に作りたいですね」と、まだ見ぬ新入生への期待を語ってくれました。

西村貞広(湖陵30期)

## 目次

同窓会総会	2頁
頑張る卒業生、白佐さん	3頁
誠愛勇から21期	4、5頁
27期同期会・旧札幌二七会	5頁

教職員湖陵会、17期修学旅行、八期会	6頁
最後の同期会35会	7頁
伊藤さん逝去、志田さん釧路で講演、編集後記	8頁

湖陵同窓会HP <http://kushiro-koryo.sakura.ne.jp/>

# 同窓会総会

## 懐かしい顔一堂に



参加者全員での校歌斉唱

釧中・釧路湖陵同窓会(島本幸一会長・湖陵19期)が、昨年8月12日に釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれ、約600人の同窓生が参加しました。

校歌斉唱に続いて、亡くなった会員に黙とうをささげました。島本会長は「たくさん同窓生に参加いただき感謝します。今日は楽しんでください」とあいさつしました。続いて来賓の橋本達也釧路湖陵高校校長、蝦名大也釧路市長(湖陵29期)が、それぞれ祝辞を寄せました。

総会では、決算報告などが行われ、役員は全員が留任しました。このあと、現役生の合唱部や器楽部、応援団・チアリーディング部が、ステージで日ごろの練習の成果を披露、同窓生から大きな拍手を浴びていました。

懇親会は、幹事期の34、44、54期を代表して天方智順(湖陵34期)さんが、「親睦を深め、楽しい同窓会にしましょう」とあいさつしました。懇親会は、高校時代に戻り、思い出話に花が咲いていました。

星 匠(湖陵30期)



澄んだ歌声を披露した合唱部



あいさつする島本会長



応援団には欠かせないチアリーディング部



息の合った演奏を繰り広げた器楽部

# もつと文化的なマチに

チェリスト

しらさたけふみ  
白佐武史さん（湖陵53期）

白佐武史さんは、チェリストとして東京を中心に活躍していますが、4年前から定期的に釧路を訪ねて、コンサートや子どもたちへの指導など、ふるさとへの恩返しをしています。

釧路市出身の白佐さんは、釧路湖陵高校から武蔵野音楽大学に進学、卒業後は同大学院博士前期課程を修了しました。その後、ドイツへ渡り、ゲヴァントハウス管弦楽団ソロ首席奏者Christian Giger氏の元で研鑽を積みま

す。ルーマニア国際音楽コンクール、ザルツブルグIIモーツァルト国際室内楽コンクールなどで入賞するとともに、著名なアーティストのツアーやレコーディングに参加しています。

新日本フィルハーモニー交響楽団の契約団員を経て、室内楽奏者、オーケストラ奏者、スタジオミュージシャンなどの活動を中心に、幅広いジャンルの演奏活動を全国各地で行っています。さらに、演劇集団キャラメルボックスへの楽曲提供など、作編曲も手がけています。

白佐さんは、高校に入学すると器楽部に入り、コントラバスを担当しました。



1年生のある日、札幌からやってきたチェリストの演奏を聴きました。すると、すっかりその音色にほれ込み、両親にねだって憧れのチェロを購入しました。チェロを手にするに「楽しくてしょうがなかった」と言います。

しかし、器楽部にはチェロのパートは

ありません。悩んだあげく、部活動は辞めました。そして高校時代は、桜井敬一さん（湖陵19期）に師事し、めきめきと実力を付けていきました。

チェロについて「他の楽器と違い、音域が幅広く、やわらかさの中にも力強さもある」と白佐さんは説明します。

4年前、「30歳を機会に、後進の指導もできれば」と来釧し、サロン・コンサートを開き、それから毎年実施しています。「日本全国を回りましたが、こんなにすばらしいマチはないと思いました」と言います。

「音楽の裾野を広げ、もつと魅力のある文化的なマチにしたい」と今後の抱負を語っています。桜が丘小学校で演奏会を開いたところ、その中の小学生がチェロを始めたと言います。今年2月11日にアフタヌーン・コンサートを、そして6月17日にサロン・コンサートを行い、音楽の楽しさをふるさとで伝える予定です。

「将来的には釧路を拠点にしたいと考えますが、そのためにも音楽家も暮らせる文化的なマチにしたい」と話しています。

# 同期会は心の宝物

湖陵21期 谷藤 克義

## 古都の修学旅行に感動

高校時代の思い出は、皆さんと同じで修学旅行と文化祭の行燈行列に尽きる。

修学旅行は2年の1967年10月下旬、9クラスが3班に分かれ1日ずつずれて出発する9泊10日の行程だ。急行で釧路駅を朝10時すぎに出発し12時間かけて函館に着、夜半すぎには青函連絡船に乗船した。蛍の光のメロディーが流れる中、テープが飛び交うといよいよ離岸の時だ。初めての内地に多少感傷的になっていたのか、洞爺丸の沈没事故がふと頭の中をよぎった。日光、東京を経て京都に到着したのは5日目の夕方だった。古都・京都や奈良の寺、街並みの美しさが印象に残っているが、一番感動したのは奈良・東大寺の盧舎那仏（るしやなぶつ）（奈良の大仏）だ。その圧倒的な存在感に心を奪われた。1200年も前にこの巨大な仏像を造営した先人たちの技術に、ただただ驚嘆した。転勤できる会社に就職したら、京都か奈良に絶対に住もうと思った。今でも京都通いを続けているきっかけとなった。

## 行燈作製は全員一体で

3年の行燈行列は特に印象深い。2年の修学旅行を終え、3年を迎えようとしてい

た時期。わがクラスはちょっとした問題を機に、連日連夜担任と生徒との話し合いが続いた。クラス全員が真剣に討議を重ね、一体感が生まれた。今でも続くG組の結束力の原点だと思う。そんな中での文化祭だった。行燈作製には全体で取り組んだ。農夫姿の仮装は恥ずかしさもあつたが、行燈を担ぎ、市内へと繰り出した。結果は3位だと記憶している。



G組の行燈行列

中学時代からニュース報道に興味があった私は、とあるニュース番組に心を奪われていた。TBSのニュース番組だ。ニュースキャスターの草分け・田英夫さんが、ベトナム戦争やアメリカの政策について歯切れの良い解説をしていた。分かりやすく、高校生の自分にも腑に落ちる解説だった。しかし「北ベトナムは負けていない」との報道に自民党の圧力があつたともいわれるが、1968年春、突然「それではみなさん、さようなら」と言い残り降板したのだ。何故か釈然としなかった。その田さんが共同通信社出身だと知り、入社を志した。速記士として入社したのは、2年後の1971年。知床旅情がちまたに流れ、カッブスードルが発売され、マクドナルドの1号店が銀座に開店した年だ。

余談であるが、前年の11月下旬、アルバイト先の車で通りかかった市ヶ谷は、騒然とした空気に包まれていた。三島由紀夫が自衛隊駐屯地（現在の防衛省本省）に籠城し、演説をしている時間だった。その後、割腹自殺をしたのは皆さんご存知の通り。歴史的事件の現場を垣間見た一瞬だった。

## 共同通信社で

翌1972年、札幌冬季五輪が終わり、連合赤軍のあさま山荘事件が解決した直後、札幌支社に転勤。くまざさの編集委員の12期・堀川春昭さん、運動部の8期・木田恒晴さんの二人の先輩には、その当時から懇意にしてもらった。三菱重工ビル爆破から始まった連続企業爆破事件では、犯行グループの中に、2人も湖陵高校出身者

がいた時は肩身の狭い思いをしたものだ。1986年に1度目、1992年には2度目の大阪支社勤務。当然ながら、あこがれの京都に住むことになった。暇があれば京都・奈良を散策する楽しい、充実した日々だった。1995年にスポーツ関連の新しい部を設立するため、大阪支社から転部してからも毎年2度、桜と紅葉の写真を撮りに通い続けている。20年以上馴染みの店もある。おぼんざいの店と100年続く老舗（京都で100年はほんのちよつと前という認識）だ。値段も手ごろ（飲み代込みで五千円程度）で、居心地の良い雰囲気のお店である。京都でそんな店に行ってみたくはぜひ連絡してください。紹介します。

## 還暦同期会

転部の翌1996年に東京21期同期会が始まった。何と第1回目の名簿には、共同通信社に勤務する私以外の名前があつたのだ。入社25年目で初めて湖陵の同期がいることを知った瞬間だった。C組の武藤寿隆君だ。不思議なものであつという間に打ち解け合うことができた。同期はありがたいものである。スポーツを扱う部なので土、日、祝日は仕事が当たり前。2001年に仙台支社に転勤してからも、時間の許す限り同期会に出席してきた。定年後も共同通信社でスポーツの仕事が続いているため、たまにしか出席できず残念でならない。還暦を迎えた2010年10月、釧路キャッスルホテルで還暦同期会が開催された。450名余りの卒業生の3分の1に当たる150名の参加だった。記念写真は人数が

還暦同好会で旧交温め

湖陵27期は、昨年11月12日にANAクラウンプラザホテルで、「こぶな会」の還暦記念同好会が行われました。釧路はもちろん、札幌や関東、関西などから113人が参加し、また、恩師の高井博司先生と藤原靖文先生も出席しました。

湖陵27期

27期は、卒業20周年、30周年、40周年と42歳、52歳の時に同期会を開催しており、6回目。今回は還暦を迎えると言うことで、1年前から幹事会を組織して準備を進めてきました。

同期会では、幹事の丹羽芳広会長が、赤いちゃんちゃんこを着て登場「同期会だけが高校時代に戻る場です。これからも大切にしたいとあいさつしました。続いて、高井先生と藤原先生に感謝の花束を渡すと、両先生は退職後の話を交えながら「第2の人生を豊かなものに」とアドバイスしていました。

懇親会では、女性たちのフラダンスや音楽研究会OBによるフォークやロックの演奏も披露されました。



花束を受け取る藤原先生(右)と高井先生

(釧路新聞2016年11月21日掲載より) 星匠(湖陵30期)

マージャン大会100回

湖陵湖陵高校を1952(昭和27)年に卒業(湖陵4期)し、札幌在住の旧札幌二七会・同窓生のマージャン大会が、昨年末100回を達成しました。

旧札幌二七会

第1回マージャン大会は、2002(平成14)年1月。愛好者が集い、当初は年に5回、4年前から年に10回開き楽しんでいました。メンバーの年齢は82~83歳。世話役の曾川明義さんは「2回目は20人が参加して5卓で競ったが、体調がすぐれない人もいて、今では2卓で行うことが多くなりました」と振り返ります。

記念すべき100回目の参加者は女性3人、男性6人の合計9人。夕方には、釧路や帯広などから3人が加わり、懇親を深めました。(釧路新聞2016年12月13日掲載) 星匠(湖陵30期)



100回目のマージャン大会に参加したみなさん

る。毎回楽しい時を過ごさせてもらい、クラス仲間、同期生には感謝してもきれいなほどである。

2017年秋にも

2017年の秋、還暦同期会並みの同期会を再度釧路で開催するとの知らせが届いている。もちろん出席予定だ。高校時代から知っている人はもちろん、知らない人でも湖陵の同期だ、というだけで一体感が生まれる。同期会とは瞬時に時空を超えて昔に戻れる、まるで心の宝物だ。一人、二人と欠けていくのは寂しいが、この先もクラスや同期の仲間との付き合いを大切にしていきたいと思う。そんなクラスや同期の仲間乾杯！そして伝統ある湖陵の一員でいられることに感謝している。ありがとう湖陵高校！

多すぎ、3クラスごとに1枚、計3枚撮ることになった(1枚になった同期全員の写真が欲しかったなあ)。宴は大盛況であったという間に2時間が過ぎ、各クラス趣向を凝らした2次会へと市内に繰り出した。G組は18人が参加して、山花温泉リフレで明け方近くまで語り合った。クラス会も同期会も瞬時に当手を蘇えらせてくれる大切な場でもある。

もう一つ、私は1999年から毎年秋、釧路に里帰りしている。湖陵中学校第4期、3年5組のクラス会に出席するためだ。その時にも、G組や同期会で知り合った仲間と会うのが楽しみの一つとなっ



G組の還暦同期会を山花温泉リフレで



還暦同期会のG、H、I組

### 会 員 湖 陵 教 職 員 路 鈞

#### 地域ふくしのまちづくり

鈞路教職員湖陵会（小向聡会長・湖陵29期）の研修会と懇親会が、昨年11月19日、鈞路市内のアクア・パールで開かれました。会員相互の研修を目的に、教員以外の異業種の湖陵同窓生を講師としての研修会は、教職の殻に閉じこもりがちな会員にとっては意義あるものです。

本年度は、鈞路市社会福祉協議会事務局長の小野信一氏（同27期）を講師に、演題を「『地域ふくしのまちづくり』—ネットワークが紡ぐ見守り、声かけ、手つなぎの地域—」として開かれました。平成28年7月に発生した津久井やまゆり学園事件に関する全国手をつなぐ育成会連合会会長にメッセージを皮切りに「身近な人に不安な気持ちを感じて話をしましょう。私たち家族は全力で皆さんのことを守ります」と呼びかけました。



講演する鈞路市社会福祉協議会の小野事務局長

今回、特に力を入れてお話しされていたことは『福祉とは何さ？』というところで、福祉とは「愛」と「奉仕」と「自己犠牲」ではなく、「いのちを大切に」にし、「くらし」を豊かにし、「いきがい」を創造

### 湖陵17期有志と+1

#### 70歳の修学旅行

2016年5月22日〜28日の7日間、17期のH組8名とA組の五本さん合わせて9名が、兵庫県で「70歳の修学旅行」を実施しました。発端は、その前年10月に開催された「17期卒業50年と古希」を祝う会が鶴居村の「ホテルグリーンパークつるい」で開催された席上で、女性から「本場の宝塚歌劇が観たい」との話から一気に盛り上がり、神戸在住の森井が、企画から宿の手配まで行い、鈞路3名（池内、伊藤、及川）、旭川1名（小坂）の女性、札幌2名（大野、森谷）、東京1名（鈴木）、千葉からは援軍・五本さんと神戸の1名が参加。

初日、2日目は異人館を巡り、市内観光、南京街、市内を一望するヴィーナズブリッジの後、ルミナス神戸でステークバイキングに舌鼓、船上から夜景と明石大橋を眺めました。3日目は「宝塚大劇場」で、花組の「MY AND MY GIRL」を最前列で鑑賞、夜は有馬温泉に宿泊です。4日目は日本三景の「天橋立」まで足を伸ばして2キロの松並木をウォーク、「伊根の舟屋」を見て京丹後市に泊まりました。5日目は城崎温泉を車窓して、天空の城「竹田城」に登城。世界遺産の「姫路城」を拝観して神戸へ。6日目は淡路島へ渡り、人形浄瑠璃を鑑賞、うずしおクルーズ船で「渦

潮観潮」、阪神淡路大震災の爪痕が生々しい「野鳥断層」を訪問しました。7日目は各々が元気に帰路について、全員無事に帰宅されました。



天橋立で記念撮影する参加者のみなさん

天候にも恵まれ、病気やケガもなく、タフな「70歳の修学旅行」に、乾杯。全スケジュールをレンタカーで6000キロ。食事も和食、洋食、中華ありと神戸を堪能した7日間でした。さてさて、次はあるのかな？（影の声「元氣ならば…」）

#### 最後の同期会

### 湖陵八期会

鈞路湖陵高校八期会（菅原一朗会長、1956（昭和31）年卒）が、昨年9月16日にANAクラウンプラザホテル鈞路で開かれ、全国から64人の同期生が参加しました。結成以来毎年開催してきましたが、近年は体調不良を理由に欠席が多く、また、鬼籍に入った人も増えたことから、卒業後60年を機会に、最後の同期会を行いました。

森井 幹男（湖陵17期）

記載され、また、近況報告も多くの同期生から寄せられ、その中には「来年は80歳！変わりなく傘寿を迎えましょう」「今まで八期会を続けてくださり、長い間お疲れさまでした」などの一言も。

物故者への黙とうをささげたあと、菅原会長は「たくさんのご参加、本当にありがとうございます。最後の同期会を楽しんでください」とあいさつしました。懇親会は、兵庫県から駆けつけた瀧滋さんが乾杯の音頭をとり、さっそく高校時代の話などで盛り上がり上がっていました。(釧路新聞 2016年9月22日掲載より) 星 匠(湖陵30期)



最後の同期会を行った湖陵高校八期会

## 35会が最後の同期会

### 39年の歴史にピリオド

湖陵12期、つまり35会のファイナル同期会が、昨年10月15日、釧路市近郊のグリーンパークつるいで開かれ、39年の歴史にピリオドを打ちました。釧路ほか、東京、新潟、札幌、帯広から駆け付けた男女45人。会長の種市徹は「私たちに後期高齢者の知らせが届く年になり、区切りが必要」と公式にファイナルの挨拶をしました。山本宏から「三水会、新年会、新潟名酒の旅は続く」と補足の説明がありました。

直前に病死した亀嶋孝尚に黙とう。諸井正毅の相撲甚句披露、校歌斉唱で宴会に。年相応の淡々とした集い。片山要がしきりに談笑する仲間たちのスナック撮りに余念がありません。午後9時には宴会からカラオケに。日付変更まで居残った種市、今井裕、筆者の堀川の3人。カラオケ嫌いの今井を改宗させ、音痴地獄から救い出すための特訓と相成りました。

「35会はなぜ長く続いたのか」と種市、山本宏に水を向けると、①8組全部に幹事を置く②定宿や会場の価格がリーズナブルと同じ回答が返ってきました。

この稿を結ぶにあたり、忘れてはならないのは釧路内外の生没合わせて総勢23人にも及ぶ幹事団。釧路のクラス別幹事(参考追録2)のほか、札幌の品田康博、斉藤明世(旧姓・三浦)、関東圏の田村義彦、三田典雄、前田一雄、阿部孝士がいなかったら、35会はここまで存続できなかったでしょう。

#### 【追録1】 35会小史

▽旗揚げ 昭和52年8月ごろ、釧路市・東急イン(現・クラウンヒルズホテル)▽卒業後35周年 平成7年10月14日、札幌市・定山溪ホテル。約60人出席▽還暦記念 平成14年10月19日、東京・品川プリンスホテル。88人▽卒業後50周年 平成22年11月12日、神奈川県箱根町・ホテル箱根パーク吉野。約50人▽古希記念 平成23年10月15日、鶴居村・

グリーンパークつるいで、約50人

#### 【追録2】 クラス別幹事

木村吉基、杉山兎、故・亀嶋、中谷藤和、菅野暁子(旧姓・西山)、西田昭紘、平野敏彦、故・藤田節也、菅原英子(旧姓・松尾)、荒井洋子(旧姓・片山)、菊池諄隆、栗山和子(旧姓・京谷)、故・榎本隆、故・桑原英一、橘武、片山、山本以

上17人

【追録3】 35会活動に協力した女性  
榎本和子、藤原美紀、広瀬公子、敬称、肩書き、職場いずれも略  
堀川 春昭(湖陵12期)



グリーンパークつるいで行われたファイナル同期会

## 志田さん釧路で講演

# 東進予備校の数学講師

釧路ロータリークラブの創立80周年記念で、東進予備校の人気講師、志田晶さん（釧路湖陵40期）を招き昨年11月5日に講演会を行いました。

志田さんは、名古屋大学理学部数学科に進学、大学院修了後に同予備校の講師になりました。この日は「数学は、実社会で役に立たない？」をテーマに、数学の理論

がICカードやDVDのコピー防止など、さまざまな新しいモノを創造していることを説明しました。「数学の方程式や定理が人生にどのように役立つか」というと、数学は物事を論理的に考え、合理的に判断する力を付けることが一番

ました。卒業式を前に陸軍士官学校へ入学、さらに航空士官学校で終戦を迎えた伊藤さんは「当時は授業でも、週に一時間の軍事教練があつたほか、夏休みになると音別は援農、計根別へは飛行場建設や軍馬補充部などに駆り出されま



数学の楽しさを話す志田さん

## 伊藤正司さん死去 竹老園東家4代目

竹老園東家総本店4代目社長の伊藤正司さん（釧中27期）が、昨年8月31日に亡くなりました。89歳でした。

伊藤さんは、旧制釧路中学校を1944（昭和19）年に卒業後、陸軍士官学校に進学しましたが、終戦を迎え、釧路市立日進小学校（現釧路小学校）で教鞭を執っていました。1947年、北大通に東家直営が再開するの機に、そば職人の道へ転身しました。

くまざさには、57号（2010年8月14日発行）の「親子三代釧中・湖陵百年紀」でご登場願

ました。卒業式を前に陸軍士官学校へ入学、さらに航空士官学校で終戦を迎えた伊藤さんは「当時は授業でも、週に一時間の軍事教練があつたほか、夏休みになると音別は援農、計根別へは飛行場建設や軍馬補充部などに駆り出されました」と振り返っていました。

また、湖陵高校創立百周年・定時制九十周年記念誌「釧中生、大いに語る!!」の中で、生まれたのは当時の東家本店があつた大町だったこと、祖父にとって初孫だった正司さんが、毎日のように隠居先だった竹老園に連れてこられたことなどを語っています。「幼少

時から釧中生の登下校の様子を目にしましたが、昭和8年から、私も毎日『相生坂』を上って

の目的」など、さまざまな実例を挙げて数学の楽しさを話していただきました。（釧路新聞2016年11月6日掲載より）

星 匠（湖陵30期）

日進小学校に通うようになると、自分のいつか釧中に行きたいと思つたものでした」と思い出を話していました。

現在、社長は次男の純司さん（湖陵30期）が継いでいます。合掌。

星 匠（湖陵30期）



くまざさ57号「親子三代 釧中・湖陵百年紀」に家族と一緒に登場していただいた伊藤さん（全列中央）

## 編集後記

私の手元に保存してある『くまざさ』によると、私が編集子の一員となったのは、平成19年3月発行の50号からである。

その号の田巻恒利編集事務局長の編集後記に「会報くまざさの新しい編集委員として川端紀一氏（湖陵11期）をご紹介します。川端さんは湖陵同窓会を大きく支える釧路教職員湖陵会の第十八代会長として活躍されました。その力量にご期待下さい」と紹介されたのがスタートである。

私の担当は、主に教職員湖陵会の活動である研修会の紹介と、編集後記（5回掲載）の執筆であった。参考までに、研修会の講師を列記すると、

- 52号 東家愛国店長の平行雄氏（湖陵21期）
- 54号 25絃箏ユニット「心花」の橋本みぎわ氏（湖陵25期）
- 59号 釧路市アイスホッケー連盟会長の足立功一氏（湖陵23期）
- 62号 湖陵高校現PTA会長の伊藤真司氏（湖陵32期）
- 64号 湖陵高校100周年記念実行委員長の蓑本正美氏（湖陵24期）
- 66号 釧路市教育委員会教育長の林義則氏（湖陵25期）
- 68号 株マルエイ六峰社営業第

二部長の平良木泰成氏（湖陵36期）  
● 70号 釧路市社会福祉協議会事務局長の小野信一氏（湖陵27期）

平成19年3月からちょうど十年間、老骨に鞭打って大役を果たして引退となるが、同窓会会計長の佐藤文昭さん、編集長の星匠さん、事務局長の田巻さんと奥さんには大変お世話になり、ありがとうございます。言葉不足ではありますがお礼申し上げます。川端 紀一（湖陵11期）

### 釧路湖陵高校

〒085-0814  
釧路市緑ヶ岡3丁目1番  
TEL(0154)43-3131  
ホームページ  
<http://kushiro-koryo.hinosek.co.jp/>

### くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一（湖陵19期）
- 同窓会会計長 佐藤文昭（湖陵22期）
- 編集委員長 星 匠（湖陵30期）
- 編集委員 川端紀一（湖陵11期）
- 編集委員 堀川春昭（湖陵12期）
- 編集委員 田中嘉寛（湖陵36期）
- 編集委員 西村貞広（湖陵30期）
- 編集委員 須貝喜治（湖陵49期）
- 編集事務局長 田巻恒利（湖陵18期）

### くまざさ編集委員会

〒085-0014  
釧路市末広町2丁目4番地  
TEL0154 (23) 0241  
手動切替FAX  
0154 (23) 0242